



今日のトピック **ともに利益成長が期待される米中株式市場
拮抗する米中の利益成長率**

ポイント1 **総じて堅調な米中株式市場**
2月までの上昇率は中国が米国を大きく上回る

■ 年明けから世界的に株式市場は概ね堅調に推移しています。米国株式市場も総じて堅調ですが、主要国/市場で大きく上昇したのは中国株です。代表的な株価指数のMSCI中国は2月22日現在で+13.4%と、S&P500種指数の同+3.2%を大きく上回っています。

ポイント2 **拮抗する米中の利益成長率**
本格化する経済回復

■ 米国では大型の景気対策への期待が強く、世界的な金融緩和も持続する見通しの中、企業業績の大幅改善が期待されます。2021年のS&P500種指数の予想利益成長率は前年比+24.0%と前年からのリバウンドもあり、高い成長率が期待されます。一方、いち早く経済が回復基調となった中国も同+17.5%と高い成長率が期待されています。両国とも2022年も高い成長率が続く見通しです。

今後の展開 **ともに利益成長が期待され、米中株式市場は堅調な展開を予想**

■ 2月10日に米中首脳会談が行われました。基本的な人権問題では対立したものの、気候変動などの広範囲な領域での米中両国の協力について言及されるなど、融和的な面も垣間見られます。両国の競争は激化するとしても、ともに成長する構図は変わらないと判断されます。上位5セクターの時価総額ウエイトと利益成長率から米中を比較すると、米国は主力の情報技術の成長率が引き続き堅調です。中国の情報技術の成長率も高いのですが、ウエイトが小さく、業績のけん引役としてはやや力不足です。両国ともにウエイトの高いコミュニケーション・サービスは中国の成長率が米国を上回り、中国最大のウエイトの一般消費財・サービスの成長率は米国とほぼ拮抗しています。今後はワクチンの浸透に応じて、時間の経過とともに景気拡大の確からしさが高まる見通しです。人の移動も活発化すると期待され、一般消費財・サービスの利益成長にけん引され、米中株式市場は堅調に推移すると予想されます。

【中国、米国の上位5セクターの時価総額ウエイトと利益成長率】

	ウエイト	2019年	2020年	2021年	2022年
中国		4.8	▲ 14.7	17.5	16.4
一般消費財・サービス	35.8	7.4	3.6	33.6	30.6
ヘルスケア	6.4	▲ 16.1	▲ 41.0	58.8	40.8
金融	12.9	11.9	▲ 7.9	7.4	8.7
情報テクノロジー	5.8	▲ 4.0	11.6	34.1	22.4
コミュニケーション・サービス	21.8	3.3	▲ 13.5	20.1	22.4
米国		1.0	▲ 14.0	24.0	15.2
一般消費財・サービス	12.5	2.1	▲ 38.0	46.4	32.8
ヘルスケア	13.1	8.6	6.2	13.3	7.0
金融	11.2	6.0	▲ 19.6	23.1	12.4
情報テクノロジー	27.4	2.3	8.4	17.0	11.5
コミュニケーション・サービス	11.0	4.2	0.5	13.3	16.6

(注) データは2019年～22年。20年は実績・予想、21～22年は予想。前年比。時価総額ウエイトは上位5セクター（2月22日）。利益は1株当たり予想利益。予想はFactSet。単位は%。中国はMSCI中国、米国はS&P500種指数。中国は人民元、米国は米ドルベース。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここもチェック! **2021年2月19日** **オンリーNASDAQから解放される世界の株式市場**
2021年2月15日 **幅広い投資の選択肢が見つかる『中国の株式市場』**

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。